

2024年8月19日

(臨床研究に関する情報)

当施設では、下記の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体または通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。この研究は、厚生労働省・文部科学省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和3年3月23日制定、令和5年3月27日一部改正。）に従って実施しています。この研究に関するお問い合わせや、検体・診療情報をこの研究に利用することにご了承いただけない場合は、下記の連絡先・相談窓口へご照会ください。検体・診療情報の利用にご了承いただけなかった場合でも、それが理由で不利益を受けることはありません。

この研究は、香川大学医学部倫理委員会で承認されています。また、香川大学医学部長より実施の許可を受けています。

[研究課題名]

女性浸潤性膀胱がんに対するロボット支援下根治的膀胱全摘除術後の前方小腸瘤に関する術式別発生率の検討

[研究の目的]

進行膀胱がんに対して2018年よりロボット支援下根治的膀胱全摘除術が保険適用となり全国的に行われるようになってきましたが、開腹手術時には頻度が低かった術後の合併症である前方小腸瘤（膣脱症）が多数認められるようになりました。

現在当院では術後の前方小腸瘤予防するため、ロボット支援下根治的膀胱全摘除術の術式を従来の膀胱と一緒に子宮及び付属器、膣の前壁を部分切除する方法から、膣壁と子宮頸部を温存する方法に変更しています。

本研究では、従来法での前方小腸瘤の発生率と新規の術式での発生率を調べ、新術式の有用性を検討します。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2018年1月1日から2024年7月31日の間に当院でロボット支援下根治的膀胱全摘除術を受けた女性患者さん

○利用する検体・情報

情報：診断名、年齢、身体所見、併存症、術後前方小腸瘤や合併症の有無

[研究組織]

香川大学医学部附属病院 泌尿器・副腎・腎移植外科 助教 岡添 誉

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部附属病院 泌尿器・副腎・腎移植外科 担当医師 岡添 誉

電話 087-891-2202 FAX 087-891-2203